

一 般 演 題

1. 視野狭窄を有する鞍上部腫瘍患者の脳血流 SPECT

隅屋 寿 辻 志郎 久慈 一英	
絹谷 啓子 市川 聡裕 利波 紀久	
久田 欣一	(金沢大・核)
立花 修 山下 純宏	(同・脳外)

脳血流 SPECT による脳腫瘍診断に関して腫瘍への集積の有無のみでは質的診断は困難であり、腫瘍以外の部位の血流変化に注目すべきである。今回われわれは視覚皮質の血流に注目してみた。対象は視野狭窄を有する鞍上部腫瘍患者 5 例と正常者 4 例である。SPECT は ^{99m}Tc -HMPAO を用いた。視覚皮質と前頭葉皮質に関心領域を設定し、視覚皮質と前頭葉皮質の平均カウント比を求めた。視覚的評価では後頭葉皮質の広範な血流低下を認めた症例もあったが、視覚皮質前頭葉皮質比は正常群と比べ有意の変化はなかった。今後は視野狭窄の程度、期間との相関、術後との比較、さらには術後の改善との関連などについて検討する必要がある。

2. 脳腫瘍診断における脳血流 SPECT の意義

市川 聡裕 隅谷 寿 辻 志郎	
久慈 一英 絹谷 啓子 利波 紀久	
久田 欣一	(金沢大・核)

脳腫瘍患者に対して行われた ^{99m}Tc -HMPAO および $\text{I-}^{123}\text{IMP}$ 脳血流 SPECT での集積の有無について検討した。内訳は meningioma 8 例, pituitary adenoma 6 例, その他 13 例の 27 例を対象とした。評価は CT または MRI で見られる腫瘍部位に SPECT 像にて周囲の脳組織より明らかに高集積であるものを集積 (+), それ以外を集積 (-) とした。HMPAO が 21 例中 5 例, IMP が 9 例中 1 例と HMPAO の方が集積傾向が見られた。また集積が見られたのは meningioma, pituitary adenoma, germinoma の一部であった。脳血流 SPECT の腫瘍の診断性は否定的なものの、今後腫瘍周囲の血流状態や remote effect の検出に有用である可能性が考えられる。

3. ^{11}C -methionine PET による脳腫瘍診断の有用性

伊藤 健吾 太田 豊裕 加藤 隆司	
山田 哲也 田所 匡典 池田 充	
石垣 武男	(名古屋大・放)
吉田 純 貞友 隆	(同・脳外)
西野 正成	(同・放部)
大島 基宜	(同・薬剤部)

^{11}C -methionine PET (MET-PET) による脳腫瘍診断について有用性を検討した。脳腫瘍あるいはその再発 9 例, 非腫瘍性病変 3 例の計 12 例を対象とした。PET は ^{11}C -methionine 370~814 MBq を静注, 16 分間の dynamic scan, その後 static scan を行った。6 例では ^{201}Tl SPECT も施行した。MET-PET は腫瘍性病変全例で明瞭な高集積を示し, MRI 上 Gd-DTPA でほとんど濃染のない例でも診断が容易であった。非腫瘍性病変ではグリオーシスと診断された 1 例で僅かな集積を認めた。 ^{201}Tl SPECT は腫瘍性病変 5 例のうち 2 例では病変を指摘できなかった。

4. ^{99m}Tc -PAO および ^{201}Tl が同時集積した脳腫瘍の検討

永吉 俊朗 瀬戸 光 神前 裕一	
藤山 昌成 清水 正司 呉 翼偉	
渡辺 直人 亀井 哲也 柿下 正雄	
	(富山医薬大・放)

^{201}Tl と ^{99m}Tc -PAO 双方が集積した脳腫瘍 5 例 (low grade astrocytoma 2 例, meningioma 2 例, pituitary adenoma 1 例) を CT, MRI と比較検討した。 ^{201}Tl は腫瘍の大きさを反映していたが ^{201}Tl に比べ ^{99m}Tc -PAO の方はより広範囲な集積を認めた。 ^{201}Tl が腫瘍自体に集積するのに対して ^{99m}Tc -PAO は腫瘍のみでなく周囲の充血の程度をも反映しているためと考えられた。